

20××年予測 アルゼンチンの牛：牛肉輸出は22%増で、最多に～FAS～

	〔牛生体頭数推移〕1千頭 *推定 予測		
	2014年	*2015年	2016年
年初飼育	51,545	51,545	51,995
乳用カウ	2,100	2,000	2,000
肉用カウ	21,300	21,300	21,500
生産子牛	13,300	13,700	14,000
輸入計	0	0	0
供給計	64,845	65,245	65,995
輸出計	0	0	0
と畜計	12,400	12,500	12,100
損失	900	750	650
年末飼育	51,545	51,995	53,245

	〔牛肉需給推移〕1千ト、枝肉換算 *推定 予測		
	2014年	*2015年	2016年
年初在庫	0	0	0
生産量	2,700	2,740	2,680
輸入量	0	0	0
供給総量	2,700	2,740	2,680
輸出量	197	230	280
消費量	2,503	2,510	2,400

アナリストは20××年12月に新政府が実施する政策にもよるが、輸出はさらに拡大する可能性があるとしている。貿易関係者は、現在の輸出規制、輸出税、ペソ高は修正されると確信している。

20××年1-7月の牛肉輸出は8%増。中国/香港への輸出は61%と驚異的に増加している。このため、中国が輸出先第1位へと浮上した。一方、対口輸出は61%と大幅に減少。

中国、EU、チリ、イスラエルへの輸出が総輸出の80%以上を占めている。

20××年6月、米動植物衛生検査局(APHIS)はアルゼンチン北部からのフレッシュ・ビーフ輸入認可のためレギュレーションを改定し、輸入を再開すると発表した。輸入再開は衛生状況の認可が終了し次第となるだろう。

輸出業者は対米フレッシュ・ビーフの輸出が再開されたら、米は非常に重要な輸出先になると期待している。アルゼンチン産フレッシュ・ビーフに対する米低関税輸入枠(TRQ)は2万ト(生産重量)で、関税は^キ当たり4.4%。しかし、枠外には26.4%の関税が課せられている。輸出業者は20××年には1万トから2万トの輸出が可能となると見ている。米市場は中国やロシアと比べ、価格が高い。199×年-200×年に2万3千500ト対米輸出されたが、チルドはわずかに1千950ト。

対中輸出増で、フローズンの輸出が総輸出のなかでもシェアを伸ばし続けると見られている。米市場が再開されたら、フローズンの輸出割合はさらに拡大しそうだ。

20××年1-7月、フローズンの平均輸出単価はト当たり4千600ドル(1USドル120円換算で55万2千円)。一方、チルドはト当たり9千ドル(108万円)で、ほぼ倍。しかし、チルドの輸出単価は前年比16%安に、フローズンも10%安となっている。

量での輸出先第2位はEU。しかし、額では価格の高いチルドの輸出が多いため最多。アルゼンチンに対するEUのヒルトン枠は2万9千500ト(生産重量)だが、ここ数年満たしたことはない。

米農務省の海外農業局(FAS)によると、20××年の牛肉生産は2%減の268万トとなる見通し。牛部門の改善が期待されており、子取り用若齢雌の留保で、と畜減となり、牛肉生産はここ4年で最少となりそうだ。

20××年12月には新大統領が政権に付く予定。生産者は3人の大統領候補者は輸出条件の緩和など牛部門にとって有利な政策を実施すると確信している。

と畜減と生産子牛増で、20××年末の飼育頭数は2%増の5千324万5千頭となり、2008年以降の最多と予測されている。

天候が良く、牧草も充分で、飼料価格も安い。ため、20××年は生産子牛が3%増の1千370万頭に、20××年も2%増の1千400万頭となる見込み。

アルゼンチンには規模の違う600か所以上のと畜場があり、このうち約1/3が連邦政府検査工場。約100か所の処理工場が輸出の認可を受けている。と畜場の総キャパシティは1千600万頭から1千700万頭。

600か所のと畜場のうち、30か所が中大規模の輸出用。7か所がブラジルの2大グループの資本だが、大半が現在閉鎖中。1か所は中国企業が所有しており、20××年末に買収された。エントレリオス州の中規模と畜場が昨年5月、初めて中国へ牛肉を輸出した。

国際獣疫事務局(OIE)は、アルゼンチンをワクチン付きでの口蹄疫清浄国として認定しており、BSEのリスクもほとんどない。

20××年の牛肉消費は2011年以降最少、4%減の240万トとなる見通し。牛肉生産が多少減少し、輸出が増加すると見られ、国内供給が減りそうだ。一人当たりの消費は20××年の59^キから3^キ減の56^キとなる見通し。

アルゼンチンでは牛肉がもっとも好まれており、一人当たりの消費の世界でもっとも多い国のひとつ。

20××年の牛肉輸出は22%増の28万トに達する見通しで、実現すれば200×-20××年以降の最多。

20××年予測 カナダの豚:と畜、生産、輸出ともに前年並み～FAS～

	〔豚生体推移〕 1千頭、*推定、予測		
	20××	20××	20××
年初飼育	12,610	12,955	13,281
成雌飼育	1,188	1,193	1,198
生産子豚	27,359	27,400	27,700
輸入	1	1	1
供給総頭数	39,970	40,356	40,982
輸出	4,752	4,650	4,750
と畜計	20,922	20,900	21,000
損失	1,341	1,525	1,500
年末飼育	12,955	13,281	13,732

	〔豚肉需給推移〕 1千ト、枝肉換算 *推定、予測		
	20××	20××	20××
年初在庫	67	58	55
生産量	1,819	1,820	1,825
輸入量	220	205	205
供給総量	2,106	2,083	2,085
輸出量	1,245	1,245	1,250
人間消費	803	783	785
年末在庫	58	55	50

カナダ豚肉輸出(各年1-6月、枝肉重量、単位:ト)			
	20××	20××	20××
日本	177,830	191,514	194,374
中国	118,716	105,533	114,243
ロシア	124,921	50,438	102,601
中国	38,813	69,156	51,830
メキシコ	18,834	29,183	33,418
韓国	37,716	28,031	20,202
台湾	10,749	18,851	17,744
フィリピン	17,396	22,394	16,923
豪州	21,651	18,219	12,346
香港	6,932	6,434	6,415
コロンビア	2,715	6,573	6,312
NZ	4,006	4,883	3,841
その他	33,003	59,072	28,801
計	613,282	610,281	609,050

農務省の海外農業局（FAS）によれば、カナダの豚業界は安定しており、20××年は多少成長しそうだ。

20××年1月1日の豚総飼育頭数は現在のところ、2.5%増に、雌豚は0.4%増となる見通し。

カナダ統計局のデータによれば、総飼育頭数と雌豚の飼育頭数は20××年1月1日、7月とも前年を上回っており、20××年下半期は生産者の分娩雌豚予定も増加している。

20××年、高い豚価で利益は、かなり改善したが、生産者はまだ、飼育頭数の拡大に意欲を見せていない。多くの生産者は、収入増を施設の改善、改良、負債の返済に充てようとしており、財政的な安定を求めている。一方、いまだに財政難の生産者も多い。

20××年の豚生体輸出は2%増の475万頭と見込まれている。いまだに生体供給は不足しているが、米での飼料コスト安と豚価高で、素豚輸出が増加しそうだ。

20××年の生産子豚は1%増の2千770万頭で、昨年同様、輸出と国内のと畜用でシェアされると見られている。米への素豚輸出の主要供給地域はカナダ西部。一部のパッカーはと畜用生体不足で、通常のと畜頭数を維持できないでいる。生体の供給不足を補おうと、一貫生産へと移行するパッカーもある。

マニトバ州では厳しい環境基準からの悪影響を受けており、飼育頭数拡大を阻む要因となっている。マニトバ州での飼育頭数を補うため、サスカチュワン南部では生体生産増のための投資が行われている。国内での飼育キャパシティが限られているが、豚価高のため、多くの素豚は米へと輸出されている。

20××年の豚肉生産は0.3%（5千ト）増の182万5千トとなる見込み。枝肉重量は前年並みだが、と畜頭数が0.5%増の2千100万頭になることが、生産増予測の背景。

消費者レポートによれば、昨年夏以降、豚肉に対する需要は高まり続けている。食肉の小売価格が高いが、豚肉は比較的廉価で、多くの

消費者は牛肉や家禽から豚肉へとシフトしている。

20××年の豚肉一人当たりの消費は前年並みの20.5^{キロ}となる見通し。

カナダ産豚肉の2/3は輸出されており、業界は国外市場に依存している。

世界での需要高が継続しており、カナダ^{ドル}安も続くと見られているため、20××年の豚肉輸出は0.4%増の125万トとなる見通し。豚肉など多くの食品をロシアは禁輸したが、ロシア以外の輸出先を見つけるのはそれほど難しくないため、カナダの輸出に大きな影響は出ないと見られている。ロシアの禁輸分は旧ソ連などへ向けられることになりそうだ。

日本は米に次ぎ輸出先第2位で、輸出シェアを拡大している。メキシコやアジア諸国への輸出も拡大している。

韓米FTAの締結で、米産豚肉の価格競争力が増したため、カナダ産豚肉の対韓輸出は減少し続けている。しかし、2014年にはカナダと韓国の貿易協定が締結され、ここ数年で失ったシェアを回復し始めるかもしれない。

20××年の豚肉輸入は前年と変わらず、20万5千トとなる見通し。主要供給国は米で、マーケットシェアは90%以上。20××年もカナダ^{ドル}安が続くと見られており、これが輸入増の要因となりそうだ。国内生産が増加しているが、それでも供給が不足しており、輸入が必要となる。

20××年予測 タイのプロイラー：生産は4%増、輸出は6%増～FAS～

〔プロイラー需給推移〕 1千ト、枝肉換算 *推定 予測	20××		
	20××	20××	20××
年初在庫	133	100	81
生産量	1,500	1,570	1,640
輸入量	1	1	1
供給総量	1,634	1,671	1,722
輸出量	504	530	560
人間消費	1,020	1,050	1,080
損失他	10	10	10
総消費	1,030	1,060	1,090
年末在庫	100	81	72

鶏肉小売価格(キロ当たりパーツ)	20××	
	(1パーツ=約4円)	20××
1月	77.14	82.50
2月	72.50	82.50
3月	77.26	83.45
4月	85.44	83.50
5月	87.50	83.50
6月	90.00	83.50
7月	94.40	
8月	92.50	
9月	84.17	
10月	82.50	
11月	82.50	
12月	82.50	
平均	84.03	83.16

農務省の海外農業局（FAS）によれば、20××年第2四半期以降、タイのプロイラー業界は収益を上げてきている。業績は良いが、業界筋によれば、一貫生産企業は、飼育や処理施設の拡大には慎重になっている。数か所の子取り用やプロイラー養鶏場でニューカッスル病が発生したためだが、生産を大幅に減少させたわけでない。このため、20××年のプロイラー生産は5%増の157万トに、20××年は4%増の164万トとなる見通し。

最大の一貫企業のひとつであるサハ・ファーム・グループは8か月間、工場を閉鎖していましたが、20××年下半期になって稼働を再開し、鶏肉（主に未調理品）輸出を始めた。サハ・ファームの1日処理羽数は約20万羽。

鳥インフルエンザなどによる食品安全、健康懸念を緩和しようと業界は飼育システムの改善を強化している。2004年、高病原性鳥インフルエンザの発生で、業界は大打撃を受けた。現在、すべての一貫生産企業は厳しいバイオセキュリティを導入している。このため、と殺時の平均生体重は4-5年前の1羽当たり2.0-2.1キログラムから2.3-2.4キログラムまで重量化した。

20××年7月の国産トウモロコシの平均価格は1月のキログラム当たり7.49パーツ（1パーツ4円換算で30円）から10.50-11.00パーツ（42-44円）まで高騰した。これは20××年後半にトウモロコシの輸出が記録的な多さとなったことと、20××-15年の収穫が遅れるとの予測があったため。20××年8-12月の価格はキログラム当たり9.00-9.50パーツ（36-38円）となる見通し。

大豆粉の価格も20××年1月のキログラム当たり19.14パーツ（77円）から世界的な価格上昇で、7月には20.00-21.00パーツ（80-84円）まで上昇した。

1日雞は1羽当たり19.50パーツ（78円）から7月になると17.50パーツ（70円）まで下落。しかし、8月になるとサハ・ファームからの需要が高まり、19.00-19.50パーツ（76-78円）まで上昇した。

20××年1-7月の平均プロイラー生産コストはキログラム当たり38-40パーツ（152-160円）で、前年同期比では9-11%高。しかし、20××年1-7月の鶏生体平均価格は前年同期比3%安のキログラム当たり41.31パーツ（165円）。20××年8月現在の平均生産コストはキログラム当たり41パーツ（164円）。内訳は1日雞が9パーツ（36円）、飼料26パーツ（104円）、ワクチン・薬1パーツ（4円）、賃金などが5パーツ（20円）。

20××年1-6月の鶏肉輸出（調理品、未調理品合わせて）は3%増の25万336ト。主要輸出先は日本とEUで、対日輸出のシェアは41%。EUは38%。

1-6月の対EU鶏調理品輸出は9%増の9万2千645ト。未調理品は10%増の9千53ト。対日未調理鶏肉輸出は前年同期のわずかに51トから1万4千397トまで拡大した。しかし、調理品の輸出は13%減の8万1千885ト。

20××年のプロイラー輸出は5%増の53万トとなる見通し。このうち約80%が調理鶏肉製品で20%は未調理品。20××年は生産増と輸出需要の継続で、6%増の56万トと見込まれている。

200××年1月に発生した高病原性鳥インフルエンザで、未調理品の輸入は禁止されたが、2013年12月25日、日本政府はタイ産フローズンの未調理鶏肉輸入を認可した。日本に加え、EU、香港、南アフリカ、バーレーン、ロシア、アラブ首長国連邦、カタールも輸入を再開した。

EU向けスチームされたダイス・シェーブ・カットのスキンレス・ボンレス・プレスト輸出価格はCIFでト当たり5千-6千ドル（1USドル120円換算で60-72万円）。

日本向けボンレスの鶏レッグ調理品輸出価格はCIFでト当たり4千800-5千200ドル（1USドル120円換算で57万6千-62万4千円）。未調理のフローズン・ボンレス・プレストの切り身は平均でト当たり3千400-3千500ドル（40万8千-42万円）。

最新

2016年、世界の食肉需給予測：生産、輸出入、すべて前年比増～FAS～
15年10月発表

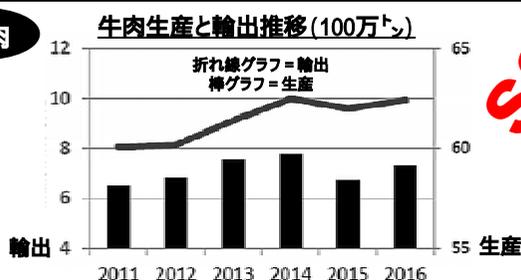
生産(枝肉換算重量、ブロイラー＝完全調理品換算数量、単位1千ト) * = 推定 = 予測)						
	2011年	2012年	2013年	2014年	*2015年	2016年
牛肉	58,160	58,527	59,467	59,746	58,443	59,196
豚肉	103,581	106,868	108,823	110,566	111,458	111,962
ブロイラー	81,159	83,282	84,494	86,549	87,944	89,336
計	242,900	248,677	252,784	256,861	257,845	260,494

消費(枝肉換算重量、ブロイラー＝完全調理品換算数量、単位1千ト) * = 推定 = 予測)						
	2011年	2012年	2013年	2014年	*2015年	2016年
牛肉	56,517	57,047	57,785	57,708	56,466	57,006
豚肉	103,170	106,260	108,360	110,044	110,944	111,226
ブロイラー	79,835	81,640	82,987	84,952	86,276	87,376
計	239,522	244,947	249,132	252,704	253,686	255,608

輸入(枝肉換算重量、ブロイラー＝完全調理品換算数量、単位1千ト) * = 推定 = 予測)						
	2011年	2012年	2013年	2014年	*2015年	2016年
牛肉	6,451	6,679	7,489	7,900	7,559	7,711
豚肉	6,558	6,858	6,597	6,358	6,438	6,466
ブロイラー	8,228	8,540	8,689	8,893	8,639	8,693
計	21,237	22,077	22,775	23,151	22,636	22,870

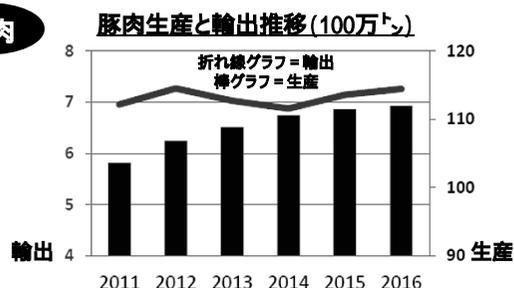
輸出(枝肉換算重量、ブロイラー＝完全調理品換算数量、単位1千ト) * = 推定 = 予測)						
	2011年	2012年	2013年	2014年	*2015年	2016年
牛肉	8,072	8,138	9,126	9,990	9,601	9,926
豚肉	6,955	7,268	7,027	6,873	7,145	7,259
ブロイラー	9,573	10,087	10,255	10,470	10,231	10,688
計	24,600	25,493	26,408	27,333	26,977	27,873

牛肉



農務省の海外農業局（FAS）が15年10月に発表した「2016年世界の食肉需給予測」によると、世界の牛肉生産は1.6%増の5千919万6千トとなる見通し。米、インド、ブラジルなど主要貿易国で、飼育頭数が拡大し、生産が増加すると見られている。世界の需要増で、インドの生産は拡大し続けており、輸出は生産の48%を占めている。ブラジルはわずかに18%に過ぎない。豪州では飼育頭数が減少、牧草の状態も改善していることから、飼育頭数拡大に拍車がかかり、と畜が減少、生産も縮小しそうだ。世界の牛肉輸出は需要高から3.4%増の992万6千トと見込まれている。牧草状態の改善と飼料コスト安で、米の牛肉生産は2010年以降、初めて増加に転じる見通し。

豚肉

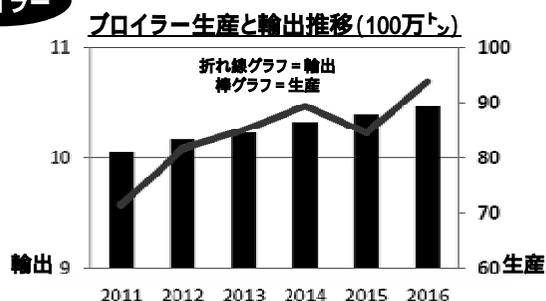


2016年、世界の豚肉生産は0.5%増の1億1千196万2千トとなる見通し。ロシアの生産は投資増、企業統合、安定した飼料価格、国内需要増などで、6%増の278万ト。

米の生産は豚流行性下痢（PED）からの回復が続いており、1%増の1千131万4千トに。輸出は5%増の237万トに達するとされている。

主要国の輸入増がロシアの輸入減を相殺し、世界の輸入量は0.4%増の646万6千トと見込まれている。

ブロイラー



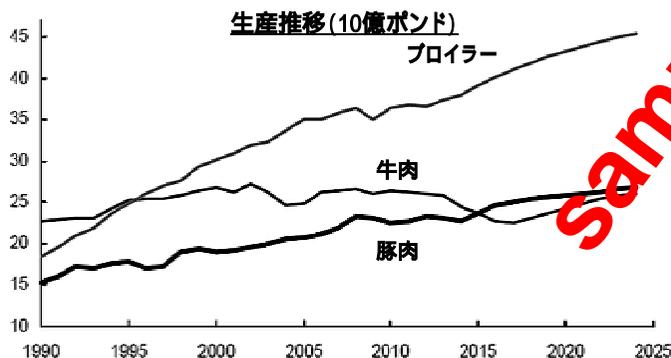
2016年、世界のブロイラー生産は主要国で拡大し、前年比1.6%増の8千933万6千トとなる見通し。2014年は第2位、2015年は中国を凌ぎ最多生産国となったブラジル。安定した飼料コストと輸出増で、生産の拡大が続きそうだ。2016年もその座を維持し、3%増の1千348万ト。

世界のブロイラー輸出は4.5%増の1千68万8千トとなる見通し。世界の輸出の3/4以上を占めている、ブラジル、米、EUからの輸出はすべて前年を上回ると見られている。米の生産は、生体の重量化と飼料コスト安で、2%増の1千836万5千トに。

ERS最新長期予測:今後10年間、米のレッド・ミートと家禽生産は増加

牛肉長期予測(1千トン)										
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
生産	10,734	10,282	10,222	10,426	10,682	10,974	11,271	11,497	11,674	11,770
輸出	1,145	1,154	1,207	1,270	1,331	1,393	1,452	1,497	1,538	1,576
輸入	1,225	1,179	1,179	1,236	1,259	1,281	1,304	1,327	1,349	1,372

豚肉長期予測(1千トン)										
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
生産	10,714	11,188	11,364	11,522	11,649	11,758	11,852	11,942	12,045	12,160
輸出	2,381	2,438	2,495	2,540	2,574	2,608	2,642	2,676	2,710	2,744
輸入	408	408	414	420	426	432	438	444	450	455



レッド・ミートと家禽の生産は2024年まで拡大

農務省の経済調査局（ERS）が2024年までの長期予測を発表した。これによると、米の畜産業界は廉価な飼料コストを背景に、利益が上がり、生産を拡大させていく意欲が高まるとされている。豚肉業界は豚流行性下痢（PED）からの影響が低減し、2014年は生産が増加した。豚肉とプロイラー生産も2025年まで拡大が継続する見通し。牛肉生産は若齢雌がと畜されるより、肉用カウの飼育頭数を拡大するために留保されると見られており、2017年までは減少。しかし、2018年からは増加し始めると見込まれている。

牛肉

ここ数年よりも飼料価格が下落しており、生産者利益が拡大、牧草の状態も改善していることで、生産者の牛肉生産意欲が高まった。しかし、子取り用に若齢雌が留保され、2017年までは牛肉生産が減少しそうだ。

2015年、肉用カウの飼育頭数は約2千900万頭まで増加、2024年には3千300万頭を上回ると予測されている。総飼育頭数も8千800万頭から、2024年には約9千400万頭まで増加しそうだ。と畜重量の増加も牛肉生産増の要因とされている。

2018年までの数年、牛肉生産が増加、肉用生体の価格は下落する見通しだが、その後は生産が減少し、価格も上向く見込み。

豚肉

ここ数年に比べ飼料コストが下がり、PEDから回復していることで、生産者は分婍雌の飼育頭数を増加させ、1頭当たりの生産子豚頭数

を増加しそうだ。と畜重量が増加すると見られており、豚肉生産は2024年まで増加する見通し。

プロイラー

プロイラーとターキーの生産がともに増加、2024年まで家禽の生産も伸びる見通し。生産増予測の要因は、と殺羽数増と平均と畜重量の増加。

消費

2007年以降、食肉生産減と輸出増で、消費者価格が上昇、一人当たりの消費も減少してきた。2004年から2007年まで年間平均レッド・ミートと家禽消費は100^{*}余だったが、2014年は91.6^{*}となっている。しかし、その後生産増が予測されており、2024年のレッド・ミートと家禽の一人当たりの消費は97.5^{*}まで回復しそうだ。

輸出

食肉生産増で、豚生体とプロイラー価格は下落し続けるが、2024年に向かっては、生産が減少し、価格も再び上向く見通し。世界経済の拡大とドル安、世界と国内での需要高で、レッド・ミートと家禽輸出は拡大すると見られている。輸出される米産牛肉の大半は、メキシコ、カナダ、環太平洋地域向けの高品質のグリーンフェッド。

豚肉の輸出も増加し続けると見られている。生産の効率化で、国際市場における価格競争力を高めている。輸出が増加すると見られているのは、環太平洋地域とメキシコ。

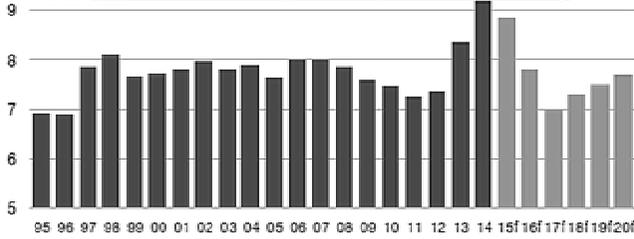
1年間の禁輸後、対口輸出も再開するはずだが、ロシアは投資を続け、国内の豚肉業界を拡大させる施策を行い、輸入依存を排除しようとしているため、米とブラジルの対口輸出は影響を受けそうだ。

プロイラーの輸出も増加し続ける見通し。主な輸出先は中国とメキシコだが、その他の国への輸出も拡大している。牛肉や豚肉と比べコストが安く、国際的なプロイラー需要も強いまま推移している。しかし、米の家禽生産者は他の輸出国（特にブラジル）との競合を強いられ続けている。

MLA最新長期予測 2015年は、と畜、生産、輸出、すべて減

と畜と牛肉生産

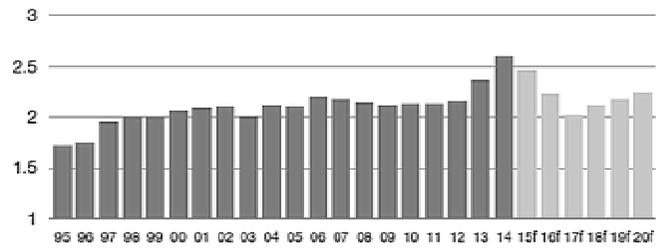
成牛と畜頭数推移(100万頭、15年以降は予測)



2015年1-6月、前年を上回っていた東部州の牛と畜頭数は、長期的な週間平均頭数である13万7千頭に接近してきた。9月のと畜頭数は15万頭から15万5千頭。しかし、2016年1-6月は平均を下回ると見られている。

1-8月の雌牛と畜は過去5年平均比26%増で、

牛肉生産推移(100万ト、15年以降は予測)

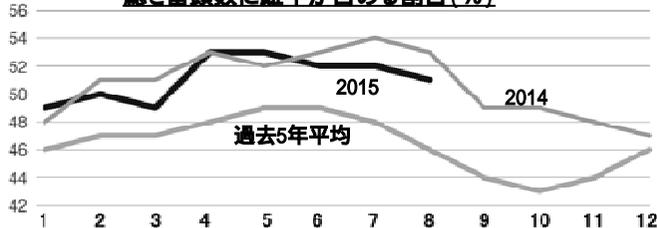


今後の牛肉生産の懸念材料となっている。雌牛が総と畜頭数に占める割合も51%で、ここ10年平均47%と比べるとかなり多い。このため、さらに生産子牛と牛肉生産は減少しそうだ。

2015年のと畜頭数は4%減の885万頭、牛肉生産は3.5%減の246万5千トとなる見通し。

牛飼育頭数と出荷の割合

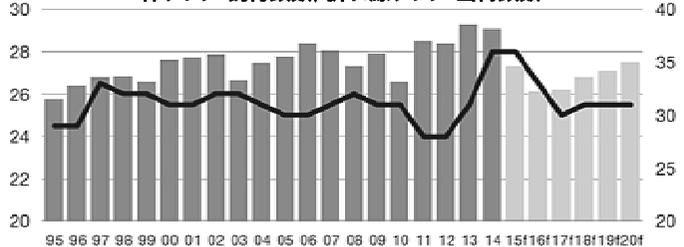
総と畜頭数に雌牛が占める割合(%)



ここ10年平均で、飼育頭数に占める出荷頭数(生体輸出を含め)は31%。この数値を上回れば、生産者はと畜用に出荷をしており、下回る

牛飼育頭数(100万頭)と出荷頭数の割合(%)

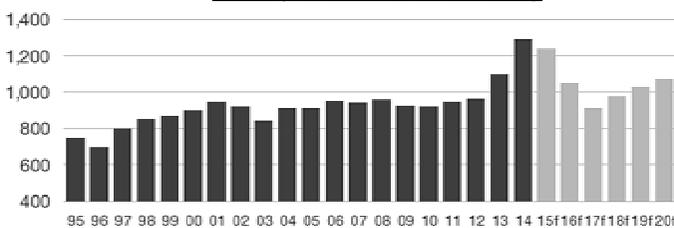
棒グラフ=飼育頭数、折れ線グラフ=出荷頭数



と飼育拡大のための留保を行っていることが分かる。2015年の出荷率がこれまでになかった2年連続で36%となれば、これは異常な状況だ。

需要

牛肉輸出推移(1千ト、15年以降は予測)



2015年1-9月の牛肉輸出は前年よりも3万9千ト余多かった。しかし、第4四半期はと畜減で輸出も縮小すると予測されており、2015年の牛肉輸出は124万ト(船積重量)に下方修正された。それでもこの輸出量は過去2番目に多いことになりそうだ。

9月最終週、米の国産90CLの価格はこの1週だけでポンド当たり25 £ (1USD ¥ 120円換算で ¥ 66

円)も下落し、1週での下落幅としては過去最大。

輸入90CLカウ・ビーフ価格は1 £ 安のポンド当たり229 £ (605円)となり、前年比62 £ (¥ 164円)安。

米の牛肉市場での価格下落は珍しいことではないが、この下落幅は通常よりも大きい。供給増での価格の下落は年内いっぱい続きそうだ。

豪産牛肉輸出は低関税輸入枠によって、制限されそうだ。また、輸出業者が枠外の関税をどの程度支払うのか、支払うことができるのかによる。

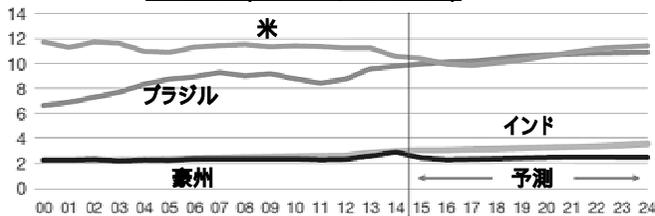
1-9月、対米輸出は24%増、対日は微減、対韓は9%増。しかし、対EUは5%減、中東も12%減、台湾は21%減。

最新豪州長期予測(= 予測)								
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
飼育頭数(1千頭)	29,291	29,100	27,300	26,100	26,200	26,800	27,100	27,500
と畜頭数(1千頭)								
牛	8,344	9,226	8,850	7,800	7,000	7,300	7,500	7,700
子牛	690	688	630	630	625	640	680	700
計	9,034	9,914	9,480	8,430	7,625	7,940	8,180	8,400
平均枝肉重量(キロ)								
牛	278.0	276.8	278.5	280.0	282.0	283.0	284.0	285.0
子牛	58.5	60.1	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0
生産(1千ト、枝肉重量)								
牛肉	2,320	2,554	2,465	2,184	1,974	2,066	2,130	2,195
子牛肉	40.4	41.4	37.8	37.8	37.5	38.4	40.8	42.0
計	2,360	2,595	2,503	2,222	2,012	2,104	2,171	2,237
牛肉輸出 (1千ト、船積重量)	1,099.8	1,294	1,240	1,050	910	980	1,030	1,070

牛肉輸出推移(1千ト、船積重量)								
	2011年	2012年	2013年	2014年	前年比	14年1-9月	15年1-9月	前年比
日本	342.2	308.5	288.8	293.8	2%	212.2	212.0	0%
米	167.8	224.1	212.7	397.9	87%	275.3	340.8	24%
韓国	146.4	126.0	144.4	150.9	5%	109.5	119.1	9%
中国	7.8	32.9	154.8	124.6	-20%	97.0	106.6	10%
カナダ	10.1	15.7	17.9	32.9	84%	24.9	32.6	31%
台湾	36.7	38.3	35.7	36.4	2%	27.9	22.0	-21%
インドネシア	39.6	27.1	39.4	53.1	35%	40.5	25.6	-37%
フィリピン	21.0	25.7	27.0	34.4	27%	23.5	17.7	-25%
シンガポール	9.7	14.1	10.6	10.1	-4%	8.0	6.5	-19%
マレーシア	14.4	15.5	15.9	13.1	-18%	10.3	9.2	-11%
タイ	2.5	2.8	4.3	5.4	27%	2.9	3.6	25%
香港	8.9	6.3	5.1	14.7	191%	10.3	4.9	-52%
EU	12.8	14.9	19.8	24.6	24%	18.9	18.0	-5%
中東	32.1	31.4	61.0	59.8	-2%	47.1	41.3	-12%
その他	97.2	80.4	62.1	35.2	-43%	28.5	15.9	-44%
計	949.2	963.7	1,099.5	1,286.9	17%	936.8	975.8	4%

競合国の牛肉生産

牛肉生産(100万ト、枝肉重量)



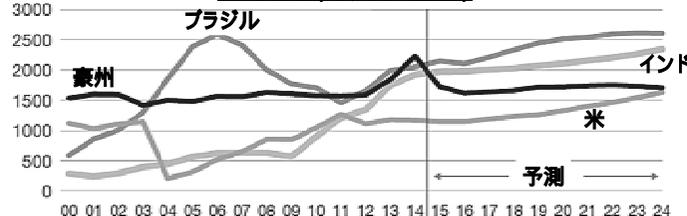
2015年、豪産牛肉生産は記録的な水準を続けているが、2017年にはこれまでで最も少ない197万4千トとなる見込み。

一方、他の主要国ではまちまちの生産となる見通し。

米の牛肉生産は2016年が4%減の997万ト(枝肉重量)に、2017年はさらに1%減となり、980万トとされている。しかしながら、その後、再び生産は増加しそうだ。

ブラジルでの牛肉生産は今後10年間、継続し

牛肉輸出(ト、枝肉重量)



て増加すると見られており、2016年は1千10万ト(枝肉重量)に。2017年は1千20万トに達する見通し。

インドの牛肉(牛とバッファロー)生産は豪産を上回り続け、2016年は310万ト、2017年は312万トとなり、今後10年間、増加を続ける見通し。

競合国での生産増は、豪産牛肉のマーケットシェアにプレッシャーを与え続けることになるだろう。